

平成27年度 事業概要

社会福祉法人佐渡福社会定款の目的にもとづき、障害者支援施設(岩の平園、第二岩の平園)、障害福祉サービス事業(そよかぜ、あんずの家、まつはらの家、グループホーム)、相談支援事業(こもれび)、障害者就業・生活支援センター事業(あてび)の円滑な経営に努めた。

法人機構改革を行い新たに常務理事(事務局長を兼務)、法人本部庶務課長を配置し、法人本部の機能強化、事務の効率化を図った。法人本部では1名から3名体制とした。

職員については、園長を3名から4名としたほか、退職者の補充、入所施設での重度化に対応するため生活支援員を増員した。再雇用職員2名のほか、事務員1名、調理員2名、生活支援員7名を新規採用した。

岩の平園では高齢化による介護、看護両面での支援度が高まり、高齢介護者対応への比重が大きくなった。食事形態や食事介助の緊急的な対応も多く、適時検討しながら取り組んでいる。年度末にはインフルエンザの感染が園内に広がり、改めて感染症対策の重要性と難しさを再認識した。

第二岩の平園では年度当初2名の欠員があったが、9月に2名の入所者を迎え、定員を満たすことができた。年間を通して入退院が相次ぎ、医務業務の重要性を認識した。また、感染症対策を行うとともに、職員の感染症への意識向上を図った。設備面では個室2部屋を増築し居住環境を改善した。

あんずの家では、新たな利用者2名が加わった。相談支援事業やハローワークとの連携により施設外支援、施設外就労及び生活支援の充実を図った。一般就労は1名が就職した。

まつはらの家では、利用者の状況に合わせて就労移行支援事業の定員を減員するとともに、就労継続支援B型事業の定員を増員した。

そよかぜでは、退所者が2名あったため、1日の平均利用者が前年度より1名超減員となった。開所後10年経過し老朽化による設備の修理を頻繁に行った。

グループホームでは、高齢化が進み介護度が増しているため、介護保険サービスの利用や日中、夜間の支援等に取り組む必要がある。

短期入所事業では、利用者の増はないが定期的な利用があった。

こもれびでは、他事業所や関係機関との連携により計画相談の質の向上に努めた。基本相談支援は、新規契約者が多く、中には支援困難なケースや触法障がい者への対応に苦慮する場面もあった。

障がい者就業・生活支援センターあてびは、情報の収集や共有など関係機関や事業所との連携を図ることに努めた。就職者数・職場実習件数はともにセンター委託要件を上回った。ただ、就職先・実習先の新規の開拓が進まないため、今後ハローワークとの連携を密にして進めていきたい。他の事業所であるが佐渡圏域にジョブコーチが配置され、連携しながら支援を進めた。